

「即位の礼」「大嘗祭」に反対する日本バプテスト連盟理事会声明

私たち日本バプテスト連盟理事会は、政教分離と主権在民を徹底させる立場から、「即位の礼」「大嘗祭」に反対することを表明します。

昨年9月の天皇重体報道以来の自粛キャンペーンと、戦争責任と無批判のまま展開されたマスメディアによる天皇賛美は、侵略戦争の犠牲者となったアジアの人々を始めとする世界各国からの怒りの抗議を引き起こしました。

一方、国内においても本島長崎市長などの「天皇の戦争責任」発言や明治学院大学などの良心的な発言がありましたが、それらの発言に対し「思想・良心の自由」を押しつぶそうとする暴力が続きました。

前天皇の死に伴う「朝見の儀」の新天皇発言における歴史への無反省、「大喪の礼」「葬場殿の儀」において公然と行った宗教的活動、自衛隊の儀仗参加、過剰警備、教育現場における、半旗・黙祷・訓話等の強制、指紋押捺拒否者らの人権を踏みにじった天皇の名による恩赦など、天皇制にまつわる諸悪の現象が噴出するのを私たちは目の当りにしました。

過去の歴史において、天皇が神となり、天皇の名によって信教の自由をはじめとする人権が蹂躪され、侵略戦争が引き起こされたことを私たちは、忘れることはできません。

来年秋、諒闇が明け「悠紀田・主基田」の稲刈りを待って「即位の礼」「大嘗祭」が行われようとしています。

「即位の礼」は、天皇が天皇の位に着いたことを正式に天下内外に向けて広く宣言する国家的儀式とされていますが、その本質は天皇が自ら高所に立ち、全世界を見下ろしながら自らの優位性を「臣民」並びにアジアを始めとした世界に宣布することにほかなりません。

これはまさしく、前天皇以来引きずっている戦争責任を無視するものであり、国民統合の象徴としての新天皇の新たな「八紘一宇」精神の再現を意味するこ

とであり、私たちは、このような「即位の礼」を認めることはできません。

「大嘗祭」は、天皇を神とし同時に祭司王とする神道儀式であります。今年1月の代替わり以降、新天皇はあたかも民主的であるかのような装いを見せていますが、「大嘗祭」を挙行しようとする一連の動きは、明らかに天皇を「現人神」として国民に印象づけようとするものであり、これに政府が関与することは明白な憲法第20条の政教分離違反です。

このような明白な宗教儀式に宮廷費・内廷費のいかんを問わず国民の税金を支出することは憲法第89条で言われている「公の財産等の宗教用途提供の制限」に違反します。

「大嘗祭」が、アメリカ大統領就任式や、イギリス国王の戴冠式に擬せられて語られることがあります。人間を神にまつりあげる「大嘗祭」と、人間が人間として大統領・国王となることとは大きく異なります。人間が神になるとき常に過ちを犯してきたことは歴史の事実です。

天地の創造主である神を信じ、イエス・キリストを主と告白する私たちは此の世のものを神とするいかなる試みにも反対します。

私たちはかつて天皇の前に膝を屈め、それによって韓国を始めとしたアジアの人達に大きな罪を犯したことを深い痛みをもって悔い改めるものであります。

日本バプテスト連盟は、この同じ過ちを繰り返さないために新天皇の「即位の礼」「大嘗祭」に強く反対します。

1989年11月8日

日本バプテスト連盟理事会